

## 26年10月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 9月20日～ 26年10月10日

## 2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
10月分の回答企業数は17社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## ア. 国産材

## (1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/10月	11月	12月
入荷動向	スギ	0.0	27.3	27.3
	ヒノキ	11.1	11.1	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 50.0	△ 50.0
消費動向	スギ	0.0	9.1	9.1
	ヒノキ	△ 16.7	△ 5.6	△ 11.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
在庫動向	スギ	△ 31.8	△ 9.1	4.5
	ヒノキ	△ 27.8	△ 22.2	△ 27.8
	カラマツ	0.0	0.0	50.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0

・スギの原木入荷は10月の減少の後11月、12月は増加に、ヒノキは10月の横ばいが11月には増加するが12月には再び横ばいに、カラマツは3ヶ月連続して横ばい、トドマツは3ヶ月連続して減少。  
・スギの原木消費は10月の横ばいから11月、12月は増加へ、ヒノキ及びトドマツは3ヶ月連続して減少、カラマツは3ヶ月連続して横ばい。  
・スギの原木在庫は10月及び11月の減少の後12月は若干の増加、ヒノキは3ヶ月連続の減少、カラマツは10月及び11月の横ばいの後12月には増加に、トドマツは10月の増加の後11月、12月は横ばい。

## (2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	26/10月	11月	12月
スギ	31.8	9.1	4.5
ヒノキ	0.0	△ 5.6	0.0
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギの原木価格は10月の強含みが11月のやや強保合を経て12月は保合に、ヒノキは10月のやや強保合が11月及び12月にはやや弱保合に、カラマツ及びトドマツは3ヶ月連続の保合。

## モニターからのコメント

## (原木荷動き)

・トドマツは夏場の入荷増で土場一杯、入荷制限一歩手前、残業しても入荷追い付かず。受注堅調、国有林システム入荷で公売を控える。  
・カラマツは生産量と入荷量が均衡しており価格は保合、トドマツは使用量が少ないので入荷制限。カラマツ梱包・パレット向けは当月も順調な需要で推移、トドマツは羽柄材関連の出荷が低調のまま、カラマツは径18～24cm及び13～14cmが平均的に少なく原木の大径化が進んでいる、トドマツは下期が出材期だが北海道では製品需要期から外れるので年度末までに過剰在庫にならないか心配。  
・ヒノキの出材は増加傾向だが在庫過多のため入荷をセーブ、先月に比べれば荷動きは良くなった、購入依頼が増加している。  
・スギ・ヒノキは丸太の入荷が例年より少ない、丸太不足で工場稼働を停止する日もある、在庫極めて少ない。  
・ヒノキは、10月天候もよく記念市も多く、出荷増加する。10月～12月は需要の拡大を期待したが外れた。手持ち在庫の消費に力を入れる。  
・スギは伐採増のため入荷増、ヒノキは原木価格の上昇で仕入減、スギは販売増で消費増、ヒノキは販売不振。  
・スギ、ヒノキは台風の影響が懸念されるが、記念市等もあり比較的材が集まる時期、製材数量は変えない、生産量並の仕入れを行い在庫増減はない。  
・スギは地域差はあるものの全体的な入荷量は減少したままの状況が続いている、このまま量が増えないと本当に困る、市況低迷により製品需要が伸びず原木高製品安の状況が見受けられる。  
・8月が天候不順で出材が少なかった分、9月以降天候回復につれ出材増えた。消費税の反動で荷動きが極端に悪い状況が続いている。製材をセーブ中。丸太在庫が少なかった分、在庫が増えた。

(原木価格)

- スギ上げ。
- ヒノキ出材が過多になりそう。
- スギ・ヒノキは丸太少なく値が下がらない。
- 製品価格低迷でやや下落。
- スギは伐採増で下落、ヒノキは一時的に価格下落で出荷減となり価格は上昇する。
- 天災が続くスギ原木の入荷が減って市場の価格は上がる。
- 製品需要減の中、原木高が続いている。
- ヒノキは完全に昨年よりも安くなった、スギも連れて下降。

## 26年10月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## (3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/10月	11月	12月
生産動向	スギ	10.0	15.0	15.0
	ヒノキ	△ 25.0	△ 12.5	△ 12.5
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
出荷動向	スギ	13.6	9.1	9.1
	ヒノキ	△ 16.7	△ 11.1	△ 16.7
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
在庫動向	スギ	15.0	10.0	5.0
	ヒノキ	18.8	12.5	18.8
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0

・スギ製材品の生産は3ヶ月連続の増加、ヒノキは3ヶ月連続の減少、カラマツは3ヶ月連続の横ばい、トドマツは3ヶ月連続の減少。

・スギの出荷は3ヶ月連続の増加、ヒノキ及びトドマツは3ヶ月連続の減少、カラマツは3ヶ月連続の横ばい。

・スギ及びヒノキの製材品在庫は3ヶ月連続の増加、カラマツは3ヶ月連続の横ばい、トドマツは3ヶ月連続の減少。

## (4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/10月	11月	12月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 13.6	△ 4.5	0.0
	柱角 KD12×3	△ 77.3	△ 13.6	△ 45.5
	通し柱 12×6	0.0	66.7	5.6
	桁角	0.0	10.0	10.0
	母屋角	△ 22.2	△ 5.6	5.6
	タルキ	△ 12.5	6.3	6.3
	間柱	△ 20.0	△ 15.0	△ 15.0
	ヌキ	△ 18.8	0.0	0.0
	平割	△ 16.7	0.0	0.0
	ラミナ	△ 20.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 25.0	△ 6.3	△ 12.5
	柱角 KD12×3	△ 25.0	△ 6.3	△ 18.8
	土台角 10.5×4	△ 27.8	△ 11.1	△ 16.7
	土台角 12×4	△ 33.3	△ 16.7	△ 22.2
	通し柱 12×6	△ 10.0	0.0	0.0
	ラミナ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	△ 50.0	△ 100.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ柱角（10.5cm）及び母屋角は10月及び11月のやや弱保合の後12月には保合ないしやや強保合に、スギ柱角（12.5cm）及び間柱は弱保合で推移、通し柱及び桁角は10月の保合が11月及び12月はやや強含みないし強保合に、タルキ、ヌキ、平割及びラミナは10月のやや弱保合が11月、12月には総じて保合ないしやや強保合に。

・ヒノキは、10月が総じて弱保合の後、通し柱は11月及び12月には保合に、それ以外はやや弱保合ないし弱保合。

・カラマツ梱包仕組み板は保合で推移、ラミナは10月及び11月の弱含みの後12月には保合に。  
・トドマツサンギは横ばいで推移。

## モニターからのコメント

## (製材品荷動き)

- ・トドマツ受注堅調、出荷はサンギは首都圏堅調。夏場より残業続く、生産即出荷続く。
- ・スギ売れ行き悪い。
- ・ヒノキは少々秋需が出てきた感じ、在庫は例年通り。
- ・スギ・ヒノキは丸太の入荷次第で生産量が変化する。製品の荷動き悪い。12cm角が売りづらい。在庫スペースが少なくなってきた。
- ・生産は、需要減でやや減少、売れない、出荷がない。
- ・スギ販売好調、ヒノキは需要減が目立つ。
- ・スギ在庫を作るためにも生産は維持。秋需の時期だが出荷が増える見込みない。出荷少なく在庫は増。
- ・スギ・ヒノキは生産変更なし、10月～11月は出荷堅調の見通し、在庫水準変わらず。
- ・スギは、注文材（木造小学校の構造材）によりやや生産、出荷が増加、ヒノキは変わらず。ヒノキももう少ししたら、ある程度在庫調整が進むのでは。柱関係は倉庫が一杯、置き場所に苦慮している状態。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツサンギの受注は堅調。丸太価格横ばい。
- ・スギは当月横ばい原木市況は強いが、製材品の荷動き次第ではアイテムにより下落もあり。ヒノキは底値圏で動き少ない。
- ・カラマツラミナ価格が8月から500円、10月から1,500~2,000円値下がりした。
- ・ヒノキ、下がらないようがんばる。
- ・スギ・ヒノキの製品売れず、在庫が増加。保有在庫を売るに走ると一層価格の下落が進行するのでは。ヒノキ4m、120角が売れない。
- ・スギ柱角 (KD)は引き合い増だが価格上昇には達しない。間柱は外材安のため引合減、ヒノキ柱は原木高だが製品価格は保合、土台角も昨年からの価格上昇でまったく引合減となった。
- ・スギ柱角は需要が減って市場では価格が下がる傾向。
- ・スギ・ヒノキとも柱・正角類は下落、通し柱は生産量が全体に少ないためか横ばい。

## 26年10月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

## (1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/10月	11月	12月
仕入動向	米マツ丸太	50.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	50.0	△ 50.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	50.0	△ 50.0
	NZラジアータ	50.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入れは10月の増加が11月の横ばいを経て12月には減少に、NZラジアータ原木は10月及び11月の横ばいから12月には減少に。

・米マツ丸太の消費は、10月の増加の後11月の減少を経て12月には横ばいに、NZラジアータ原木は3ヶ月連続の横ばいに。

・米マツ丸太の在庫は、10月の横ばい、11月の増加を経て12月には減少へ、NZラジアータ原木は10月の増加の後11月、12月は横ばいに。

## (2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/10月	11月	12月
米マツ丸太	50.0	50.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	50.0	100.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の購入価格は10月及び11月の強含みが12月には保合に、NZラジアータ原木は10月の保合が11月、12月には強含みに。

## モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・NZラジアータ原木は、注文量が増えない、消費は横ばいか減産の方向。

(原木価格動向)

- ・NZラジアータ原木、円安でやや上昇。

26年10月分

## 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

## (3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/10月	11月	12月
生産動向	米マツ製材品	50.0	△ 50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	50.0	△ 50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は10月の増加が、11月には減少し12月は横ばいに、NZラジアータ製材品は3ヶ月連続して横ばい。

・米マツ製材品の出荷は10月の増加が、11月には減少し12月は横ばいに、NZラジアータ製材品は3ヶ月連続して横ばい。

・在庫は、米マツ製材品、NZラジアータ製材品とも3ヶ月連続して横ばいで推移。

## (4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/10月	11月	12月
米マツ平角		0.0	0.0	0.0
米マツ正角		0.0	0.0	0.0
米マツ小割		0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		△ 50.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)		△ 50.0	0.0	0.0
NZ土木用材		0.0	0.0	0.0
その他		—	—	—

・米マツ製材品の出荷価格は、保合で推移。

・NZラジアータ梱包材は、10月の弱含みが11月、12月には保合に、土木用材は保合。

## モニターからのコメント

(製材品荷動き)

(製材品出荷価格動向)

・NZラジアータ製材品は多少価格は弱い。